

「畑のためのホメオパシー」 講座開設と考察

JPHMA認定ホメオパス No.0957

JPHMA認定アニマルホメオパス No.A0127

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0225

ホメオパシーセンター韓国 ホンソン

長谷川希生

「畑のためのホメオパシー」 講座開設と考察

1. はじめに
2. 目的、対象
3. 講座内容
4. 考察

1.はじめに


コロナ禍での変化（韓国）

- 医療危機 + 韓国では医者や病院がストライキを始める事態に
追い込まれ医療危機状況悪化

➡ 補完代替医療をはじめホメオパシーの需要増加中

- 輸入に頼っていたレメディーやマザーティンクチャーの入手が難しくなった
- 原油の値段が上がりに伴う肥料の値上げ

➡ 有機農法、自然農法の推進や家庭菜園の取り組みの動きが強くなる

ホメオパシー ユーザーからの声 

「食糧を自給し自分の畑で食糧のみならず薬草も栽培し、健康促進に役立てられたら！」
「マザーティンクチャーの作り方講座をしても材料が手に入らない！！」（除草剤や農薬まみれの場所ばかりで健康な土地に出会うことすら難しい状況）

人が健康になるためには？

土が健康でなければならぬ。

土から食糧、薬、家族をケアできる畑づくりにホメオパシーを活用して、自らの健康と、家族の健康を思う方々やホメオパシーユーザーに向けて「畑のためのホメオパシー」という講座を開設。

より多くの方々、より多くの生命たちにホメオパシーの恩恵が降り注ぐことを願いつつ講座開設と現時点の考察をお伝えする。

2 目的 対象



目的

ホメオパシーの普及、ホメオパシーの活用の幅広さを伝える、セルフケアを畑から始めるきっかけを作る。



受講生が得られること

家庭菜園に使える季節別のレメディィーを知る。自分の畑でハーブを育てて自分でマザーチンクチャーを作る。ホメオパシーの活用の幅を広げる。



対象

ホメオパシーに興味のある方、植物へのホメオパシー的アプローチを学びたい方、家庭菜園でのトラブルを化学肥料や農薬に頼りたくない方など

講座内容

☀️ 全7回講座 月一回 主催、支援：女性農業人センター
受講生数 23名（ホメオパシー入門者：13名 ホメオパシーユーザー：10名）

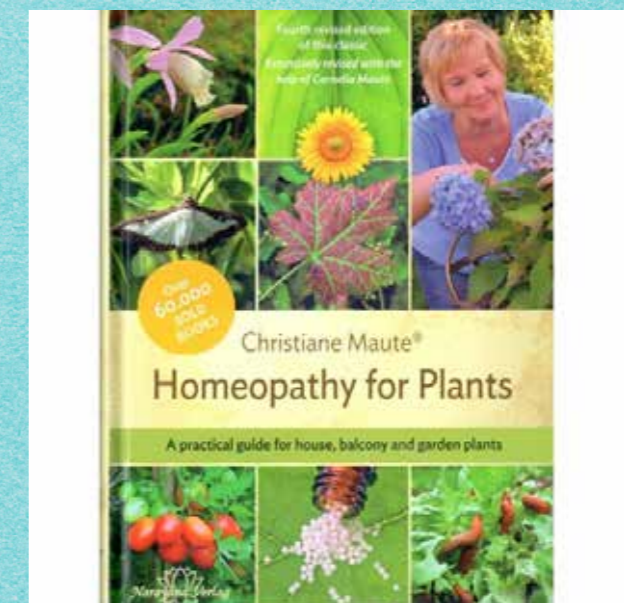
☀️ 対照の畑を設け、違いを検証する

☀️ 栽培ハーブなど
主にマザーチンクチャーの材料になるものを選択
（ボラゴ、エキネシア、カレンデュラ、セイヨウオトギリソウ、カモミール、セイタカアワダチソウ、オート麦、ルー、アルファルファ、サラダ菜、チコリー、トマト、唐辛子、大根など）

1回目 2024年3月22日 ホメオパシー入門

ホメオパシーの基本原理を知る

ホメオパシーとは、レメディーとは、レメディーの使い方と保管方法



2回目 2024年4月19日 春の畑のためのホメオパシー

- ☀️ 春にする作業、天気の変化に対してホメオパシーで対応できる
播種、定植、剪定時のホメオパシー対処、冷害への対処
植物を丈夫にするための3大要素の役割（根、茎）
- ☀️ 実習：畑にハーブを定植、レメディィーを散布（Arn. Calen.）



右畝：レメディィーを散布
定植四日後2024・04・23

3回目 2024年5月3日 夏の畑のためのホメオパシー



夏、梅雨が始まる前にできることを学ぶ。

虫、梅雨、暑さ対策真菌、ウイルス性の症状対策
虫対策（アブラムシ、アオムシ、ナメクジなど）



実習：除草、夏野菜定植、日焼けのためのレメディを散布
(Arn. Calen. Bell)



2024-05-03



右畝：レメディを散布
2024-05-23

4回目 2024年6月7日 畑のためのハーブ活用法 1

- ☀️ マザーチンクチャーとは、作り方
- ☀️ 実習：畑の除草作業、ハーブの収穫、チンクチャーを作る
土と植物のためのマザーティンクチャーを散布



右畝：レメディィーを散布

2024・06・07

5回目 2024年7月12日 畑のためのハーブ活用法2

☀️ マザーチンクチャーの使い方、マテリアメディカ

☀️ 実習：畑の除草作業、種の観察、土と植物のためのマザーチンクチャーブレンドする。



2024.7.12

6回目 2024年9月12日 秋の畑のためのホメオパシー

☀️ 植物に必要なミネラルについて（花、実、種）

☀️ 環境汚染対策（放射能、電磁波、黄砂、ケムトレイル）

実習：秋に栽培する野菜の播種（大根、葉野菜など）定植時のレメディ―散布。



2024・9・12

7回目 2024年10月18日 まとめ



冬と来春に向けて準備できることを学ぶ

建物の中で育てる植物、鉢植えの植物のためのホメオパシー、植物の癌治療について



実習：除草


入門者の反応：家庭菜園にホメオパシーを取り入れつつも受講生自身のセルフケアにもホメオパシーを使いたい。マザーチンクチャーを早速作って活用している。

特に現在、体の症状がない方でも畑や自分のペットにまでも使えることを知り興味を持ってくれた。

ホメオパシーユーザー：植物の症状と人の症状と似ていることもあり、応用がすぐできることがわかった。幅が広がって嬉しい。


考察

- ☀️ ホメオパシー入門者 : 未知の療法であり把握がしにくい部分ではあるが石油化学に頼らず自然のもので自らの健康や栽培している植物、土までもケアできることを知ることができる機会
- ☀️ ホメオパシーユーザーの方 : セルフケアで使っているレメディーが植物にも使え、使い方の幅が広がった。
- ☀️ 理論 + 実習の形態講座の利点
植物の成長過程とその姿形を目で確認し、肌で感じ、香りを嗅ぎ、全身の感覚機関を通して植物を感じることもできる。
レメディーやマザーティンクチャーの理解を促すのに役に立つ。
受講生が初めて見るハーブ、馴染みのある草花や野菜もあるが、実際に植えつけ、葉っぱ、茎、花や実、種子まで観察することにより命のつながりを感じることができる。

 農業の専門家でないのに講座が可能か？

ホメオパスはホメオパシーの専門家だが植物の症状と人や動物の症状は大変似ている。レメディーの選択は難しくない。セルフケアでレメディーやマザーチンクチャーを使える方は少し学ぶだけですぐ実践できる内容。理論的に伝えることは難しくない。

実習面の副講師を農場運営しているホメオパシーユーザーにサポートを受ければ良い。ホメオパスも学びながらすれば良い。

 実習地と植物の苗などの確保が可能であればどのホメオパスもできる講座。地域のつながりを深めながら、畑というフィールドで土、植物、虫、菌、人、動物との共生と命のつながり、健康を育むことのできる学びの空間となるでしょう。